

県ペタンク競技で入賞

町身障連チーム

11月6日、第9回熊本県障がい者スポーツ大会(ペタンク競技)が熊本県民総合運動公園(熊本市)で開催され、益城町身障連チームが6位入賞を果たしました(全74チーム出場)。

出場選手は、主将の馬場孝さん(市ノ後団地)、岩本博さん(南)、野田正徳さん(市ノ後)、西静雄さん(辻団地)の4人。試合は18パートに分かれてリーグ戦を行い、各パート1位チームの成績で総合順位を決める方式で行われ、本町チームは3戦全勝ながら僅差で6位となりました。馬場さんは「練習を重ね、来年はさらに上位を目指したい」と決意を述べていました。



入賞した益城町チーム(左から岩本さん、馬場さん、野田さん、西さん)



それぞれの“宝もの”を描く子どもたち

壁面は自然の画用紙

町内小中学生壁画大会開催

10年目を迎えた「町内小中学生壁画大会」が、くまもと教育の日関連事業として11月21日、秋津川左岸歩道壁面(馬水)で行われました。

「宝もの」をテーマに町内の6年生約300人と中学生30人が秋晴れのもと、制作に挑みました。

1枚が約2m四方、全長100mにも及ぶ壁面は、まさに自然の画用紙。「色の組み合わせが楽しい」「ペンキだらけになった」などと歓声を上げながら、地球環境や学校、友達などそれぞれの“宝もの”を色鮮やかに描きました。

大会は、町P連役員が強力にバックアップ。二水会や益城絵画クラブ、ソレイユ益城のみなさんが絵のサポート役として協力しました。

長年の花植え奉仕に感謝状

木山中生徒会から梅田隆義さん(辻団地)へ

11月18日、木山中学校(松本正文校長、301人)で、25年以上同校に花植えボランティアを続けている梅田隆義さん(辻団地)に対して、生徒会から感謝状が贈られました。梅田さんは毎年、同校西側の正門から続く歩道の脇約200メートルに、サルビアの花1,500株を植え続け、生徒たちの心を和ませてきました。

ほぼ一人で、種から育てた苗を準備し、植え付けや水かけ、除草などを行う梅田さん。「作業中に『いつも花がきれいですね』と言葉をかけられるのが一番励みになります」と話します。これからも梅田さんの花が、通学する生徒たちを温かく見守ってくれるでしょう。



「これからも体力が続く限り頑張ります」と話す梅田さん